

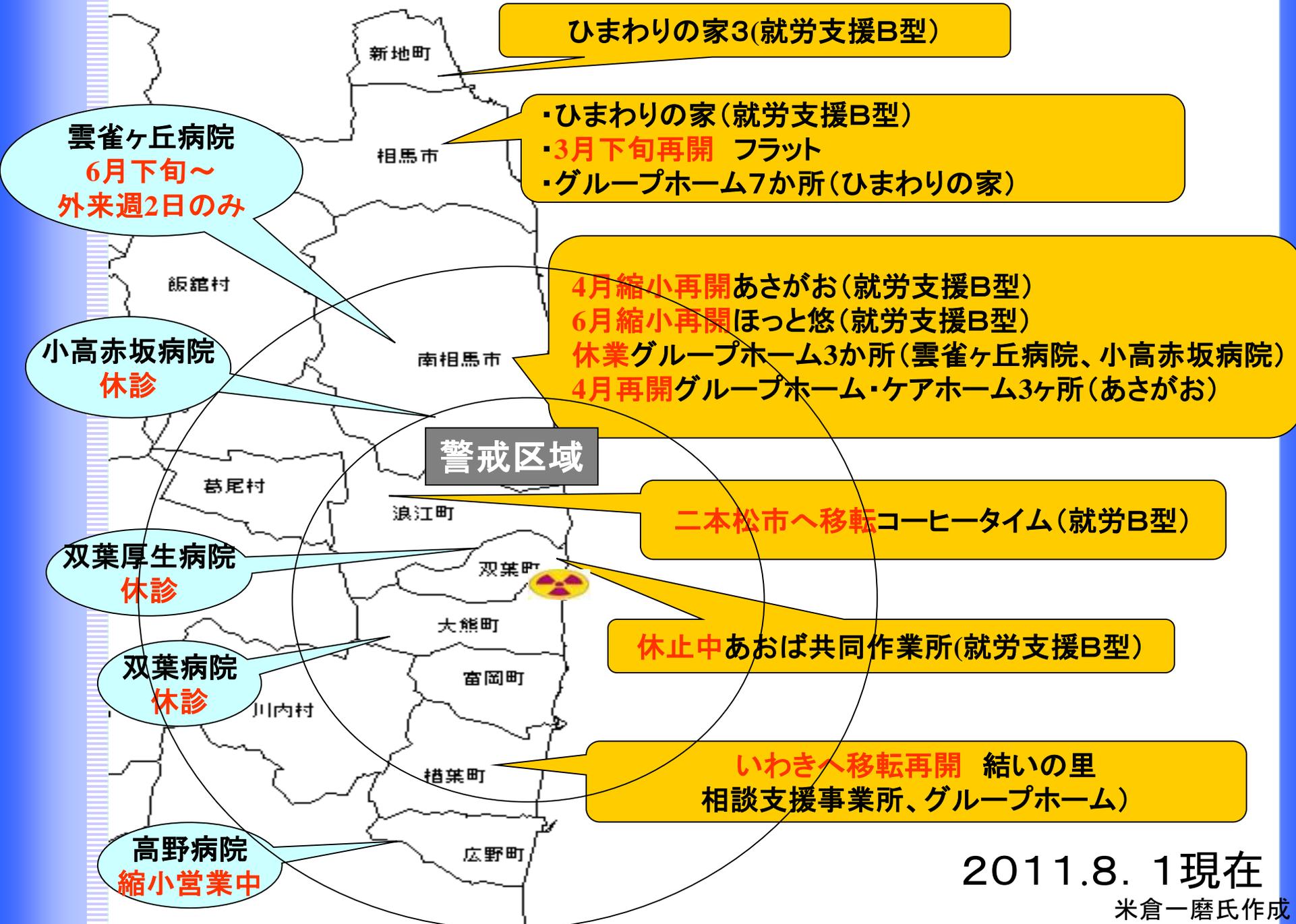
# 精神科医療・心のケアとしての 取り組み

福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

丹羽 真一

# 精神科医療システムにおきた障害の 状況





2011.8.1現在

米倉一磨氏作成

# 一時避難先に係る各都県への避難状況

都県名	避難先別	病院数	病院毎合計	都県毎合計
福島県	民間病院	25	211	270
	公立病院	4	59	
山形県	民間病院	1	20	20
新潟県	民間病院	12	19	20
	公立病院	1	1	
栃木県	民間病院	18	81	101
	公立病院	1	20	
群馬県	民間病院	2	20	20
茨城県	民間病院	15	100	107
	公立病院	2	7	
東京都	民間病院	13	170	226
	公立病院	1	56	
千葉県	民間病院	1	10	10
神奈川県	民間病院	8	77	77
山梨県	民間病院	5	28	28
埼玉県	民間病院	5	36	39
	公立病院	1	3	
その他	退院	/	7	310
	施設(老健等)		195	
	他避難所		86	
	行方不明		1	
	死亡(一時避難先移送前)		19	
	その他		2	
合計			1228	1228

# 子供と親の心のケア



2011/04/24 11:43

子ども達と折り紙で過ごした楽しい時間

出口貴美子先生作成

# 子供たちの状況

**2才未満**は、身体症状よりも親の心理を反映し、被災後の子育ての環境が特に影響している様子。**3歳～5歳**は、遊び(津波や地震ごっこ)の様子や**排尿**(パンツがおむつに戻る)、**睡眠**など、**発達過程の問題**が明らか。

**6歳未満**までの乳幼児では、未熟な子どもの発育発達過程での問題が多く、こころのケアというよりも**子育て一般のアドバイス**が必須。

小学生になると、その反応は複雑化。**フラッシュバック**など具体的なストレス反応が、子供達自身の口から聞かれ、**行動と心理面の不安定さが複雑に絡み合**って見られるので、その反応も、個別に、時間を掛ける必要がある。

# こどもの心のケア

厚生労働省

福島県災害対策本部

県障がい福祉課

県立医大  
災害対策

県知事

派遣要請

日本児童青年精神医学会・日本小児心身医学会派遣専門医

県臨床心理士会派遣臨床心理士

チームを構成:  
下記地域で予約診療・相談

県精神保健福祉センター  
＜地域ニーズの全県調整＞

## ＜心のケアチーム＞

浜通り以外地域でのチーム編成  
県内精神科医(精神科病院協会・診療所協会等)・臨床心理士会・PSW協会・看護協会

相双地域でのチーム編成  
県外からの精神科医師  
看護師・心理士・PSW等  
医大:精神科医  
医大:看護学部職員(精神)  
相双保健福祉事務所保健師

いわき市でのチーム編成  
医大:精神科医  
医大:性差医療センター医師  
+医大:看護師・CP

会津 診療・相談: 県立会津総合病院

会津 相談: 会津保健福祉事務所

中通り 診療・相談: 総合療育センター・県立矢吹病院・福島医大

浜通り以外

- # 専門医/臨床心理士ペアで予約診療
- # 保健所乳幼児健診で、児観察・母の相談
- # 避難所での親子を対象とした相談・診療
- # 放射能に関する適切な啓発活動
- # 小児科クリニックと児童相談所の連携

診療・相談: 公立相馬総合病院

相談: 相馬市保健センター

相双

診療・相談: 長橋病院

いわき市

相談: いわき市保健福祉センター

## ＜こどもの心のケアチーム＞

【日本児童青年精神医学会】  
【日本小児心身医学会】

【福島県精神医学会】  
【福島県臨床心理士会】

【福島県児童家庭課・児童相談所】  
【福島県養護教育センター】

【福島医大医学部】  
小児科学講座  
神経精神医学講座

【福島医大看護学部】  
精神看護学領域  
心理学教員

# 心のケア

—その課題と方向性—

# 県人口流出続く 33年ぶり200万人割れ

## 仮設住宅着工状況

※5日現在（県調べ）

所在市町村	戸数	妻崎市町村別戸数
福島市	1,382	浪江 924 双葉 120 飯館 338
二本松市	1,069	浪江 1,069
伊達市	126	飯館 126
本宮市	475	浪江 475
国見町	100	国見 63 飯館 37
桑折町	300	桑折 14 浪江 286
川俣町	230	川俣 230
大玉村	648	富岡 648
郡山市	1,273	富岡 622 川内 401 双葉 250
須賀川市	194	須賀川 194
田村市	360	田村 360
三春町	770	富岡 330 葛尾 440
鏡石町	100	鏡石 100
白河市	260	白河 140 双葉 120
矢吹町	85	矢吹 85
西郷村	42	西郷 42
会津若松市	884	双葉 879 双葉 5
会津美里町	259	楢葉 259
猪苗代町	10	双葉 10
相馬市	1,500	相馬 1,000 飯館 164 南相馬 243 浪江 93
南相馬市	2,134	南相馬 2,134
新地町	573	新地 573
いわき市	2,673	いわき 189 広野 678 楢葉 975 富岡 292 双葉 259 大川 240 内 50

## 本県の避難状況

⇒ 矢印は役場機能の移転状況

### 総人口

震災前 202万4,401人(3月1日現在)  
震災後 199万7,400人(7月1日現在)

### 震災後の公立学校の県外転校者数

小学生 5,710人 (7月15日現在)  
中学生 1,962人 (7月15日現在)  
高校生 1,028人 (8月1日現在)



### 1次避難所

ピーク時(3月16日現在) 7万3,608人(403カ所)  
9月6日現在 241人(8カ所)



### 2次避難所

ピーク時(6月2日現在) 1万7,902人(541カ所)  
9月6日現在 3,668人(249カ所)



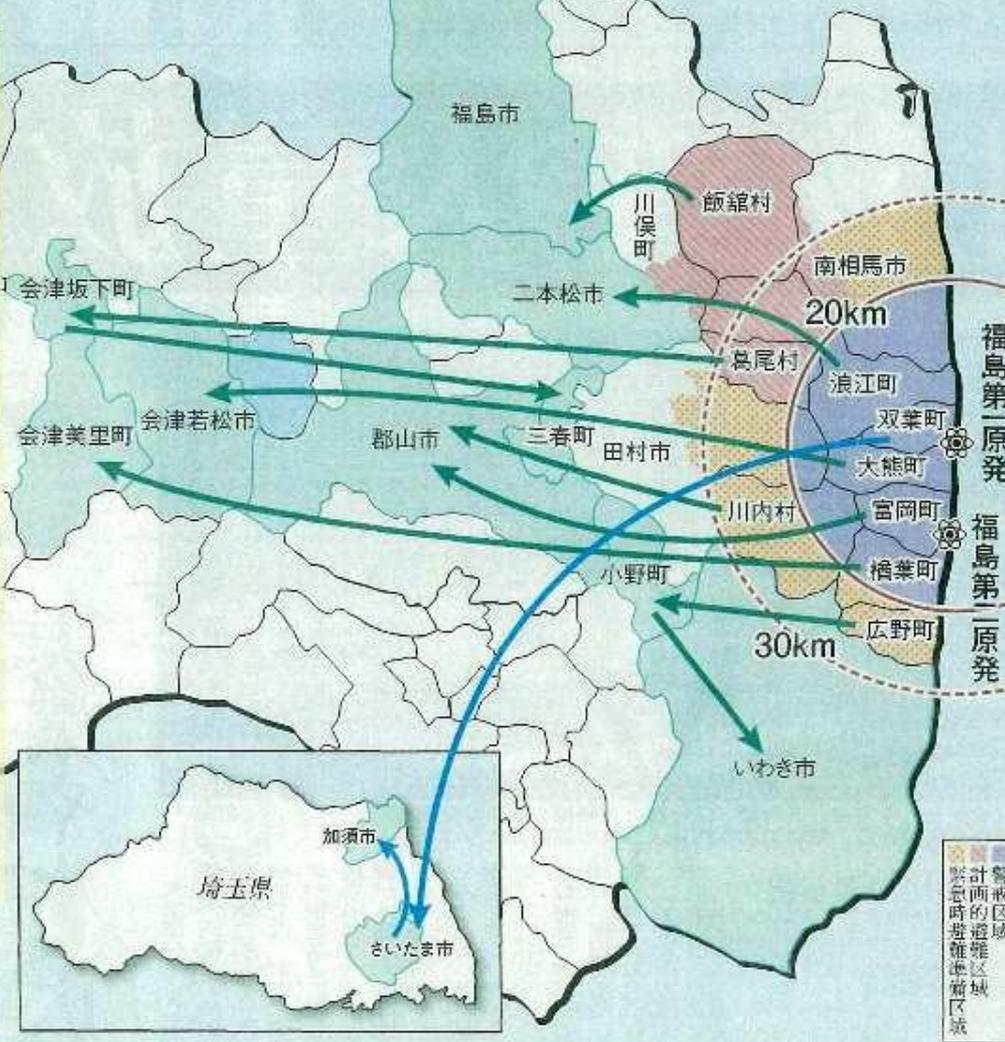
### 仮設住宅

9月5日現在  
着工戸数 15,447戸  
入居戸数 10,191戸



### 借り上げ住宅

9月5日現在 2万1,226戸



警戒区域  
計画的避難区域  
緊急時避難準備区域

2011年(平成23年)8月10日

# 福島県の転校1.4万人

## 公立小中 全児童・生徒の1割

福島県内で公立の小中学校に通う約1万4千人の児童・生徒が、既に県内外に転校したか、夏休み中の転校を希望していることが同県教育委員会のまとめで分かった。全児童・生徒の1割近くにあたる。多くは「放射線への不安」を理由に挙げたという。

県教委によると、7月15日時点で県外に転校した児童・生徒が7672人、県内の転校が4575人いた。夏休み中に転校を希望して

いる児童・生徒は、県外が1081人、県内が755人だった。東京電力福島第一原発のある「浜通り」地域だけではなく、福島市や郡山市など「中通り」地域からの転校も多いという。

夏休み中の転校希望者に理由を聞いたところ、県外転校希望の約4分の3が「放射線への不安」と回答。県内転校希望の約半数は「仮設住宅への引っ越し」を理由にした。

県教委は「事故の収束が

見えず、転校を決めた家庭が少なくないのでは。保育

園や幼稚園児を含めると、子どもの県外流出は深刻な問題だ」としている。

## 全世帯が避難している檜葉町による 全世帯対象調査の結果（2011年8月）

回収率 1995／2900 世帯 （68.8%）

体調が悪くなった家族がいる？

少し悪くなった家族がいる 53.8%

非常に悪くなった家族がいる 17.7%

家族に次のような人がいる？

先の見通しがつかず精神的につらい 72.2%

睡眠があまり取れない 3割超

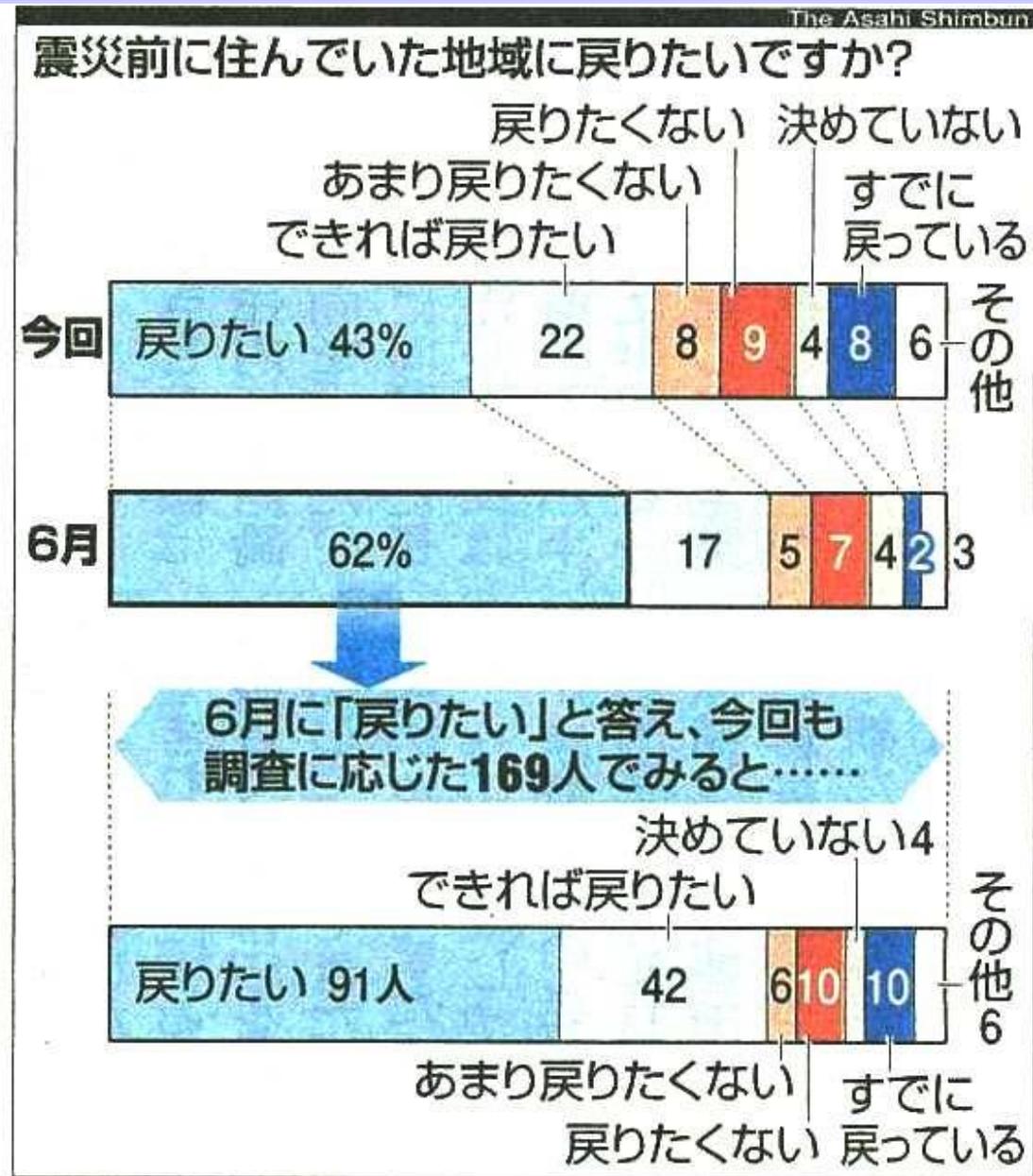
することがなく生き甲斐がない 3割超

アルコールを飲む回数や量が増えた 17.8%

収入が全くなくなった 21.7%

（2011年10月1日 朝日新聞12版から）

# 「戻りたい」4割に減



## 震災後、自殺者が急増 因果関係は不明 政府が情報収集に乗り出す

2011. 7. 16 00:15

自殺者が急増している。 4～6月は3カ月連続で前年同月を大幅に上回った。 津波で自宅を失い無理心中した高齢夫婦、放射能汚染で野菜の摂取制限が出された翌日に自殺した農家…。政府は 対策に生かすため詳細な情報収集に乗り出した。

- 6月11日、福島県相馬市の酪農家の男性（55）が自殺しているのが見つかった。 フィリピン人の妻と息子2人は福島第1原発事故の影響でフィリピンに帰っていた。「原発さえなければ…」。男性は堆肥小屋の壁にこう書き残していた。
- 飯館村では4月中旬、102歳の男性が死亡しているのが見つかった。家族が村外に避難し、離れ離れで暮らしていたことを苦にした自殺とみられている。
- 6月下旬には「老人はあしでまといになる。お墓にひなんします」と遺書に記し、自殺した南相馬市の93歳の女性もいた。

警察庁のまとめでは、福島県内の自殺者数は4月以降、3カ月連続で前年同月を上回っている。特に5月は40%近い上昇率を示しており、震災の影響をうかがわせる数字といえる。

## こころのケアの課題

- 1 精神疾患患者の治療の継続と維持
- 2 震災・原発事故のために新たに発生するPTSDやアルコール依存などへの早期介入
- 3 放射能汚染の不安への対処
- 4 高齢者の認知機能低下の抑止
- 5 自殺の抑止
- 6 医療・福祉スタッフのメンタルケア力の向上

相双に新しい精神科  
医療・保健・福祉システムを  
つくる会の事業

仮設住宅へのアプローチ(新地町・相馬市・南相馬市)



- 「いつもここで一休みの会」
- 「サロン」
- 全戸訪問(11・3・7月)

# 「相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」構想図

相馬市保健センターおよび  
南相馬市原町保健センターでの活動

- 「ちょっとここで一休みの会」



職員の心の相談/健診:年1回

- 相馬広域消防署員
- 高校教員
- 新地ホーム
- 役所/役場職員



未受診者・治療中断者の治療導入への支援

- 相談
- 訪問

精神科医療保健福祉  
関係者へのアプローチ

- 研修会
- 定期ミーティング
- DVD作成

精神科小規模  
デイケア

訪問看護  
(24時間対応)

入院ベッド(2~3床)  
(危機介入・レスパイトケア)

巡回車の運行

訪問

搬送方法の確立



中通りの病院へ

福祉施設(地域活動支援センター/  
グループホーム等)

自宅

## NPO法人にて運営

### ■常勤のコメディカル

新地町・相馬市  
担当チーム

### ■常勤のコメディカル

南相馬市  
担当チーム

相馬広域こころのケアセンター  
なごみ(仮称)

仮設の全戸訪問  
職員の  
心の健診／相談等  
他チームの応援  
を要請

南相馬市内に  
ブランチの事務所

# こころのケア・チーム(案)

- 厚労省の三次補正予算で
- 県精神保健福祉協会に本部をおき、各地区にチームを
- 福島医大、福島県のこころの健康調査へも対応

## 被災地の心のケアを担う人材確保策について(案)

- ・仮設住宅への訪問支援等の際し、より一層の精神保健面での健康支援の充実強化が必要
- ・被災自治体においては、従来業務に加え、被災者への支援を引き続き行うことから、保健師等の専門職が人材不足

関係団体の協力を得ながら、全国から中長期的に支援できる専門職の人材確保を行う

### 心のケア人材確保ネットワーク

- ・職能関係団体を通じて、活動できる支援者(専門職)の照会
- ・被災県に対して、支援者に係る情報提供

#### (構成団体)

- ・日本作業療法士会
- ・日本社会福祉士会
- ・日本精神保健福祉士会
- ・日本臨床心理士会
- ・日本精神科看護技術協会
- ・全国精神障害者地域生活支援協議会

※事務局:厚生労働省

### 被災自治体

岩手県	宮城県
福島県	等

【支援に係る経費については、各県において、障害者自立支援対策臨時特例交付金に積み増し対応する】  
(想定される活動例)

- ・仮設住宅等への訪問
- ・市町村や保健所等における精神保健相談の強化
- ・心のケアセンターの設置や活動に係る経費
- ・地域住民に対する講習会
- ・支援職員への研修会等
- ・医療機関からのアウトリーチ支援

情報提供・協力